

水と生きる **SUNTORY**

サントリーグループの業務変革の取組み

サントリービジネスシステム株式会
社
グループ経理部

2023年8月

サントリーグループ経営成績

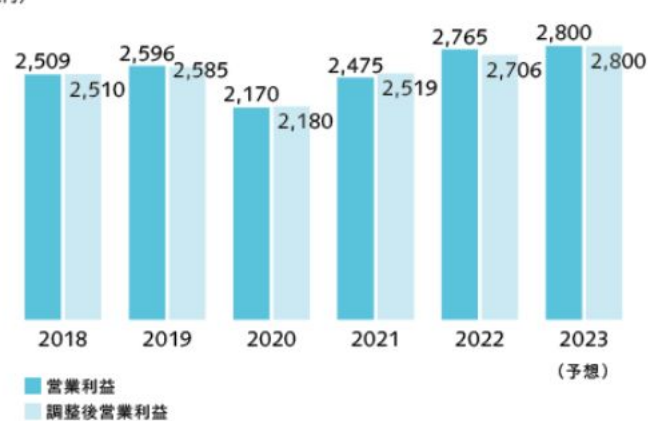
連結売上収益

(億円)

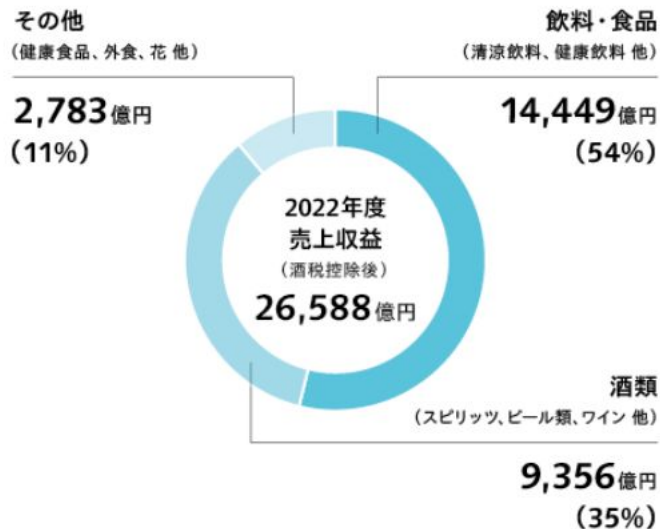


連結営業利益

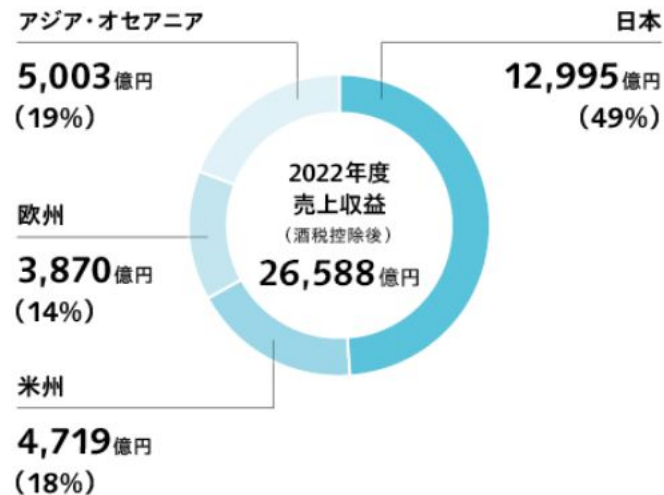
(億円)



事業セグメント別売上



地域別売上



主要事業



食品事業



スピリッツ事業



ビール事業



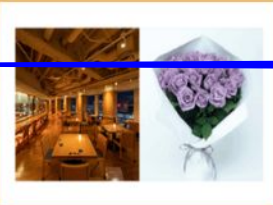
ワイン事業



健康食品事業



外食・加食・花・サービス関連事業



機能会社



研究開発



ダイナックホールディングス

1958年創業、パーレストラン事業のノウハウを活かし、施設などのレストランの受託運営や各種イベント・パーティの企画運営に至るまで事業を拡大しています。多業態を起ドミナントに展開する直営の飲食ビジネスと、実績とノウハウを武器に拡大する受託のビジネス。2つの串輪で事業ポートフォリオをくみ上げ、業容を拡大するというビジネスモデルが当社の強みです。



フロントコーポレーション

1988年に創業し、『昼はカフェ、夜はサカバ。』という『二面性』をキーワードに、使い勝手の良い空間を一日中ご用意する「PRONTO（フロント）」、気軽にワインとお料理を楽しむ「ワインの番場」の「Di PUNTO（ディプント）」、レモネードとこだわりのグルメドッグを提供するカフェ「È PRONTO（エプロント）」、お茶と和スイーツの和カフェ「Tsumugi（ツムギ）」など、複数の飲食業態をフランチャイズ展開しております。



井筒まい泉

「とんかつまい泉」は、「箸で切れるやわらかなとんかつ」をはじめ、おなじみの「ヒレかつサンド」、各種お弁当やお惣菜の製造、販売をしています。1965年の創業以来、豚肉、パン粉、ソース、ひとつひとつの素材にこだわった老舗の味は、国内外で多くのお客様に愛されています。



ハーゲンダッツ ジャパン

おいしさと品質にこだわり、感動を創造する

ハーゲンダッツ ジャパンは1984年に創立以来、「ハーゲンダッツ・モーメント」（ハーゲンダッツを口にしたときの至福の瞬間）をご提供することを使命として事業を行っています。アイスクリームの原材料や品質へのこだわりはもろろん、日本市場向けの商品開発や新分野の開拓を通して、今後もお客様の期待を超える新たな驚きと感動の創造に挑戦し続けます。



FACTORY

見学できる工場のご案内



ビール工場

〈天然水のビール工場〉
東京・武蔵野
東京都

〈天然水のビール工場〉
京都
京都府

九州熊本工場
熊本県



ウイスキー蒸溜所

山崎蒸溜所
大阪府

白州蒸溜所
山梨県



ワイナリー

登美の丘ワイナリー
山梨県



天然水工場

天然水南アルプス
白州工場
山梨県

天然水北アルプス
信濃の森工場
長野県

天然水奥大山
ブナの森工場
鳥取県

九州熊本工場
熊本県

増設工事により
秋まで閉館中



鳥井信治郎

創業

1899年

- 1899年、大阪で創業
- 創業者は鳥井信治郎
- 当初は、ワインの製造と販売で事業を拡大



サントリーグループの企業理念

社はや創業精神をもとに、わたしたちの目的、価値観で構成。
会社がめざすこと、それを実践する上で大切にしたい考え方を示すもの

わたしたちの目的 Our Purpose

サントリーグループが事業を営む目的、企業としてめざす方向性

人と自然と響きあい、豊かな生活文化を創造し、
「人間の^{いのち}生命の輝き」をめざす。

わたしたちの価値観 Our Values

目的を実現するために、すべての社員が大切にすべき価値観

Growing for Good

人として、企業として、社会のために成長し続けること。
成長し続けることで、社会を良くする力を大きくしていくこと。

やってみなはれ

失敗を恐れることなく、新しい価値の創造をめざし、
あきらめずに挑み続けること。

利益三分主義

事業活動で得たものは、自社への再投資にとどまらず、
お客様へのサービス、社会に還元すること。

コーポレートメッセージ

企業理念を凝縮し、お客様や社会とコミュニケーションするための言葉

水と生きる **SUNTORY**

自然と水の恵みに生かされる企業として、貴重な水資源を守ること。さまざまな企業活動を通じて社会に潤いをもたらし、社会にとっての水であること。
社員一人ひとりが水のように自在にしなやかに挑戦できる会社であること。
「人間の生命の輝き」をめざす想いを、「水」に託して伝えるメッセージです。

サントリーグループの組織概略

サントリーホールディングス

SCM、宣伝・広報、CSR、技術管理他＋本社機能

経営管理部・財務部

サントリー食品インターナショナル

サントリー

ビール
ウイスキー・RTD
ワイン
営業部門

サントリーウエルネス

ダイナック等外食事業

ハーゲンダッツジャパン

サントリーフラワーズ

...

サントリービジネスシステム

企画部

グループ人事総務業務部

グループ営業業務部

グループ経理部

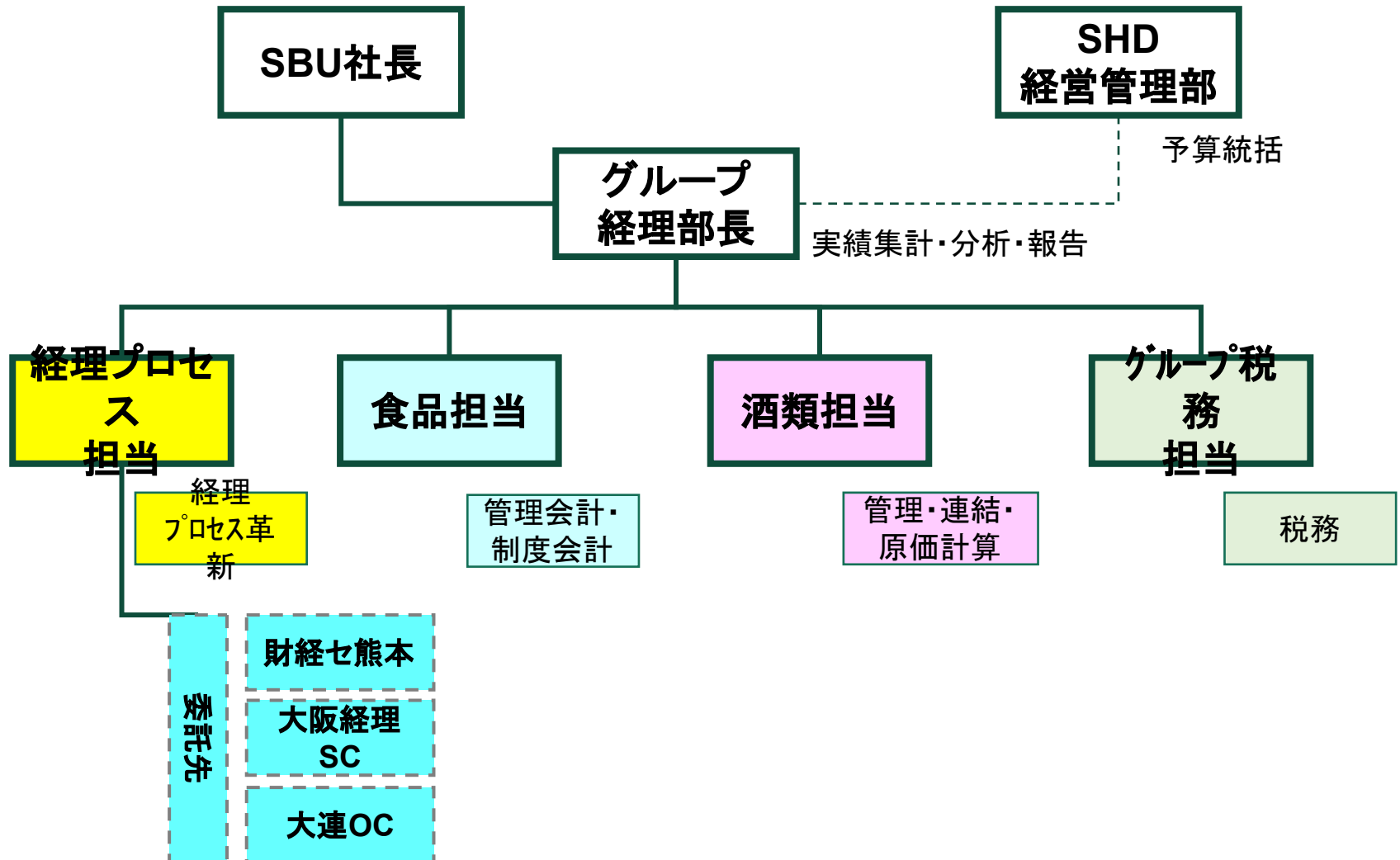
コラボレイティブセンター

サントリーイノベーションセンター(R&D)

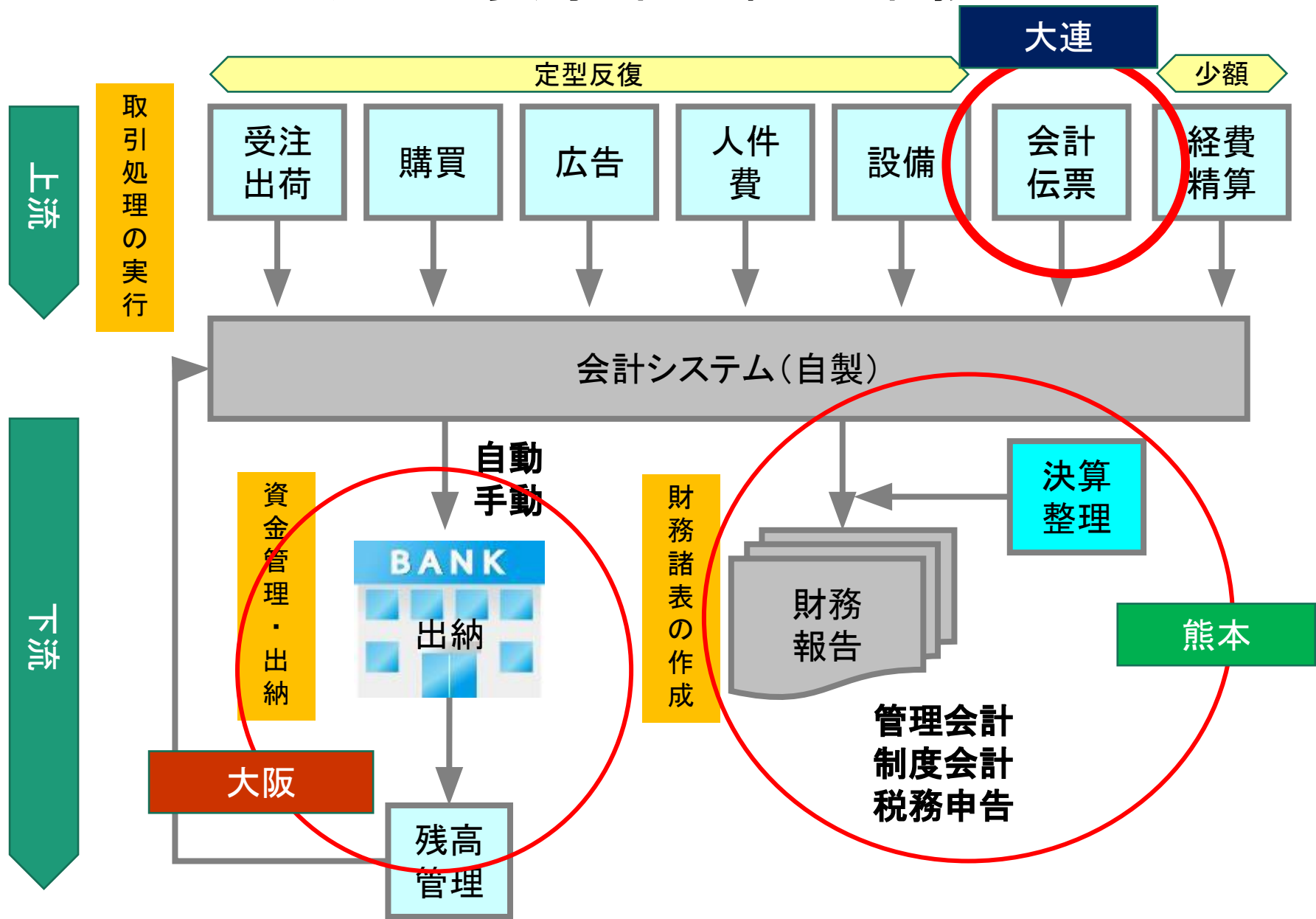
サントリーシステムテクノロジー(IT)

...

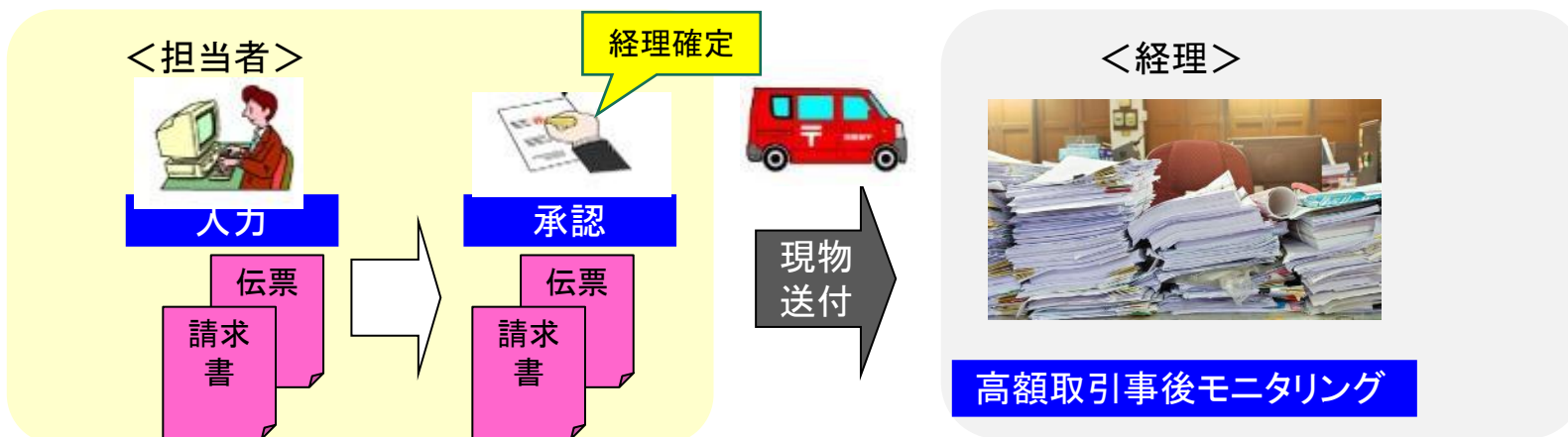
グループ経理部 組織概要



サントリー主要事業の経理業務フロー



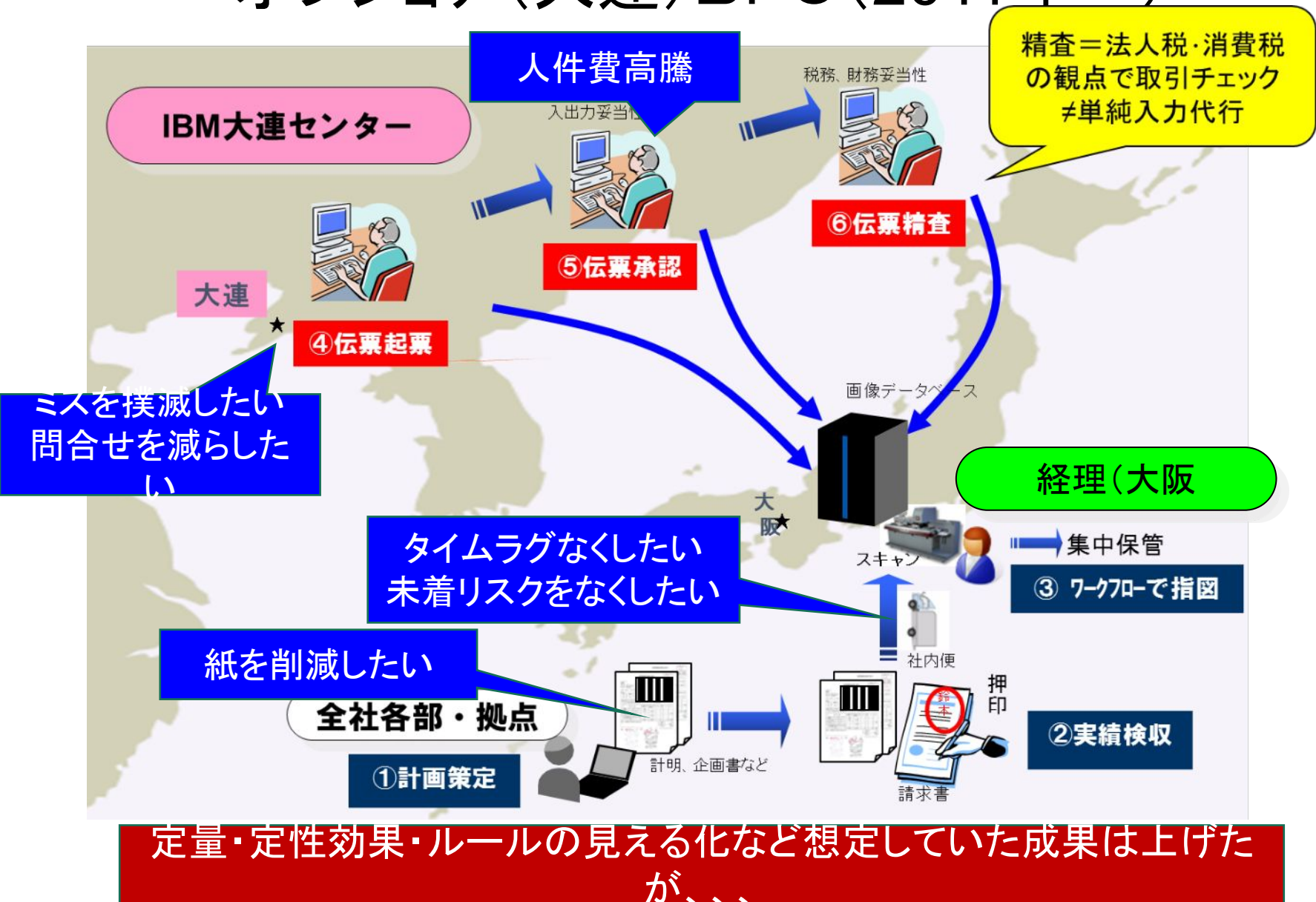
大連BPO前(～ 2010年)



- ①現場での支払伝票入力工数削減
- ②経理部門の伝票精査工数削減→専門分野への集中
- ③監査・調査厳格化→全件精査による経理処理精度向上

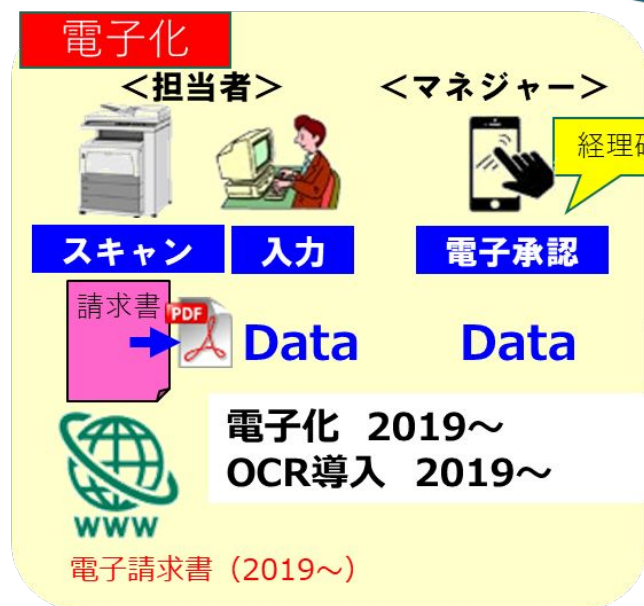
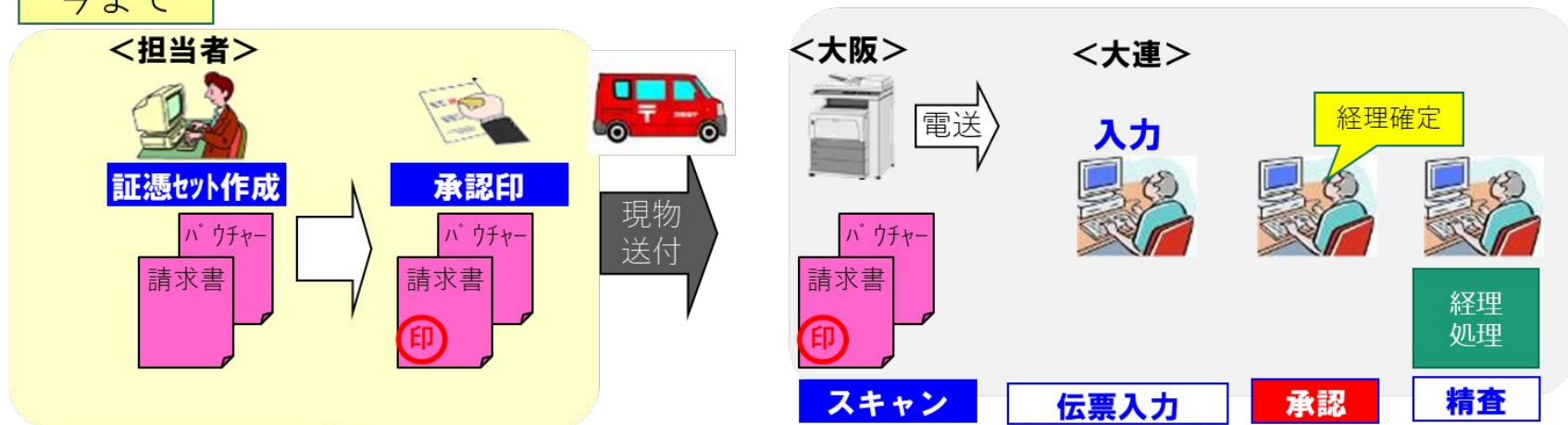
支払業務・モニタリング業務のBPOへの挑戦

オフショア(大連)BPO(2011年～)



支払伝票 証憑電子化(2019年～)

今まで



- ①ペーパーレス
- ②現場工数削減
(過去パターン活用・請求書
情報OCR読取り)
- ③大連要員削減



2019年～の状況

電子請求書

- ・取引先への展開が困難

OCR

- ・取引先ごとに事前登録
(初期設定)が必要
- ・紙をスキャンした証憑は対象外



利用が進まない

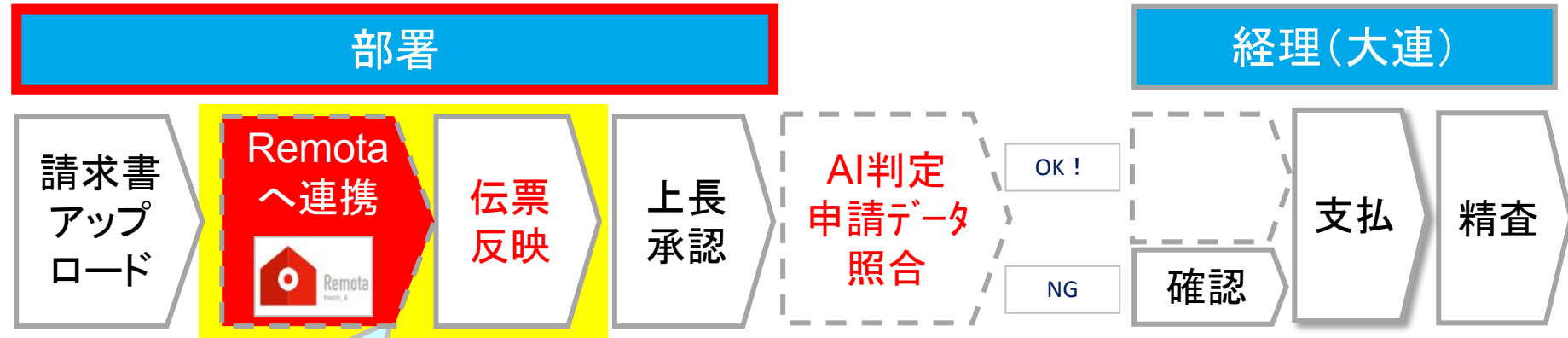
財務部門の「やってみなはれ」

AI-OCRを活用した 伝票入力・チェック業務の自動化

2021年1月
AI-OCR「Remota」
(ファーストアカウンティング社)
導入プロジェクト始動



AI-OCR導入後 ～自動入力～



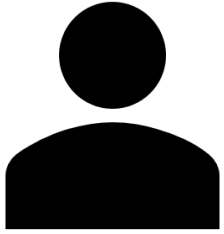
■読み取り項目

- ・請求書発行日・請求書番号・請求金額
→伝票へ反映
- ・口座番号
→伝票申請データと照合

伝票申請画面		AI-OCR読取項目
取引年月日	=	請求書発行日
取引内容	=	請求書NO
支払金額	=	請求金額

過去データ利用機能と組み合わせで入力レスを実現

利用者の声



請求書の番号は桁数も多くて入力するのが大変だったけれど、自動で入力されるようになり、確認するだけでいいので、とても便利になりました！

AI-OCRと過去入力パターンの再利用とを組み合わせると、**入力する項目が無く、感動しました！** 思い込みによる金額打ち間違いも減りました。



AI-OCR導入後 ～自動チェック～

部署

経理(大連)

請求書
アップ
ロード

Remota
へ連携



伝票
反映

上長
承認

AI判定
申請データ
照合

OK !

NG

確認
不要

確認

支払

精査

税抜金額 + 税額 = 税込金額

AI正確性判定結果

True(自信あり)

False(自信なし)

申請データとの照合結果

支払金額が正しい
口座番号と一致

支払金額・口座番号
いずれか不一致

全て

大連確認

無

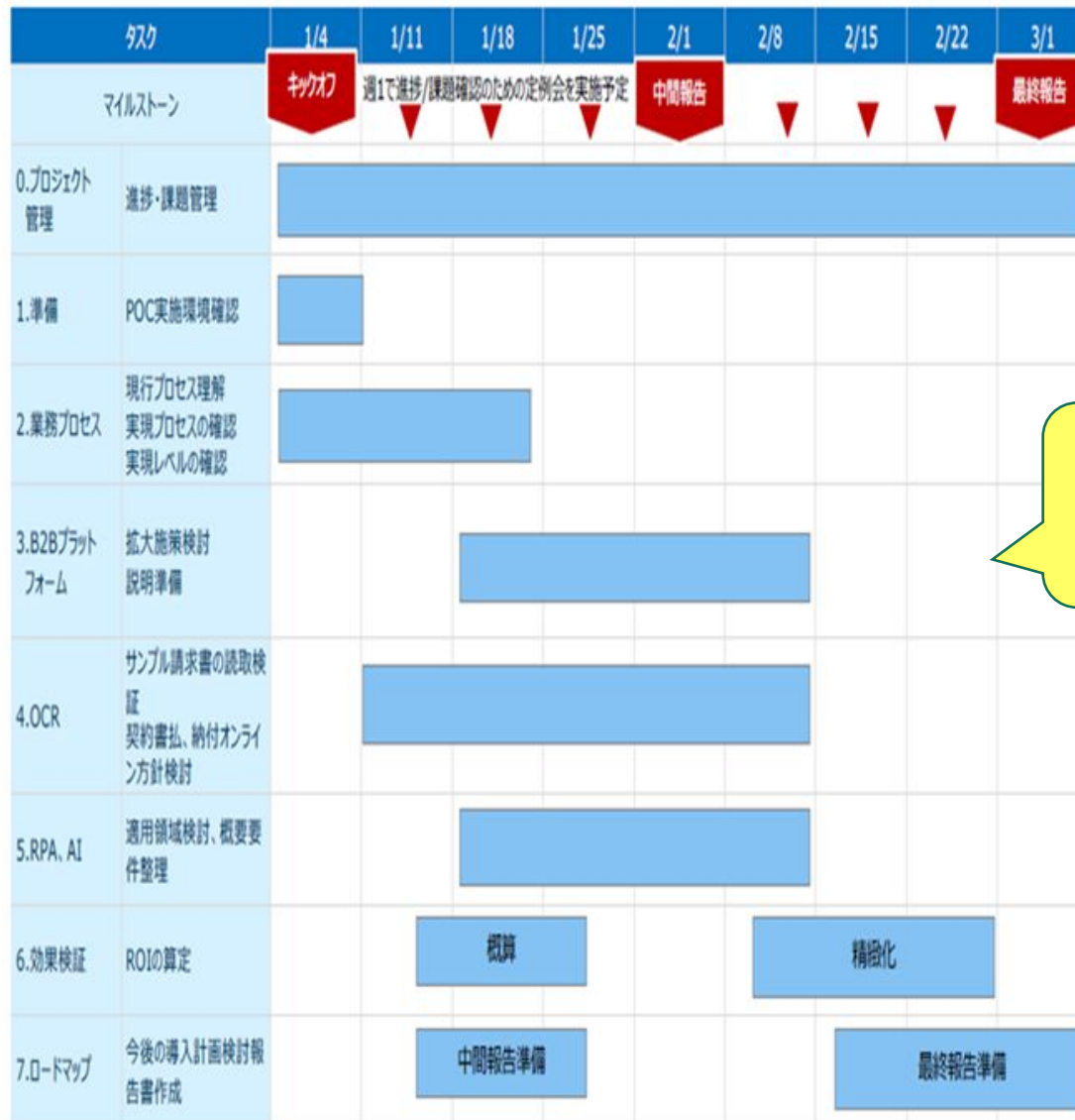
有

有

入力データと照合

AIによる自動判定により、
人が確認しなければならない案件を絞り込む

AI-OCR導入プロジェクト(POC⇒導入決定)

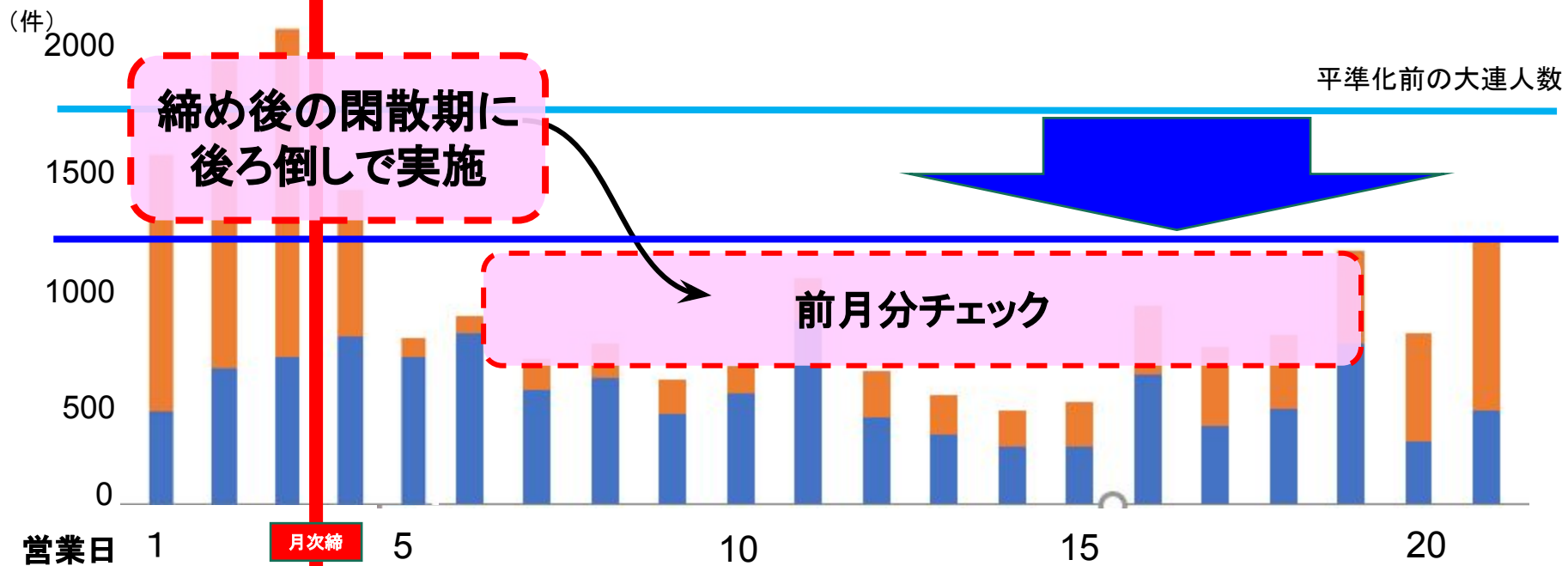


2ヶ月で
導入決定

大連「照合」の平準化

(これまで) 大連の代行入力＝締めまでに大連の入力完了が必須
(これから) 部署の入力後、そのまま確定可能

→ **大連の事後でのチェックに運用変更**



申請部署の締め時間変更

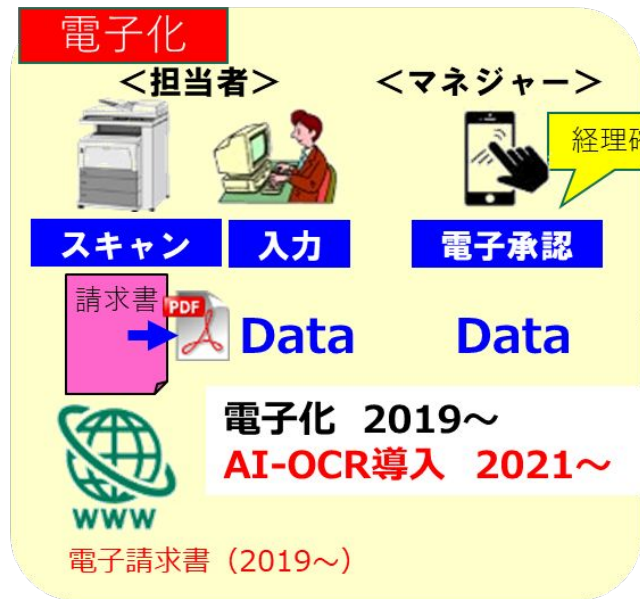
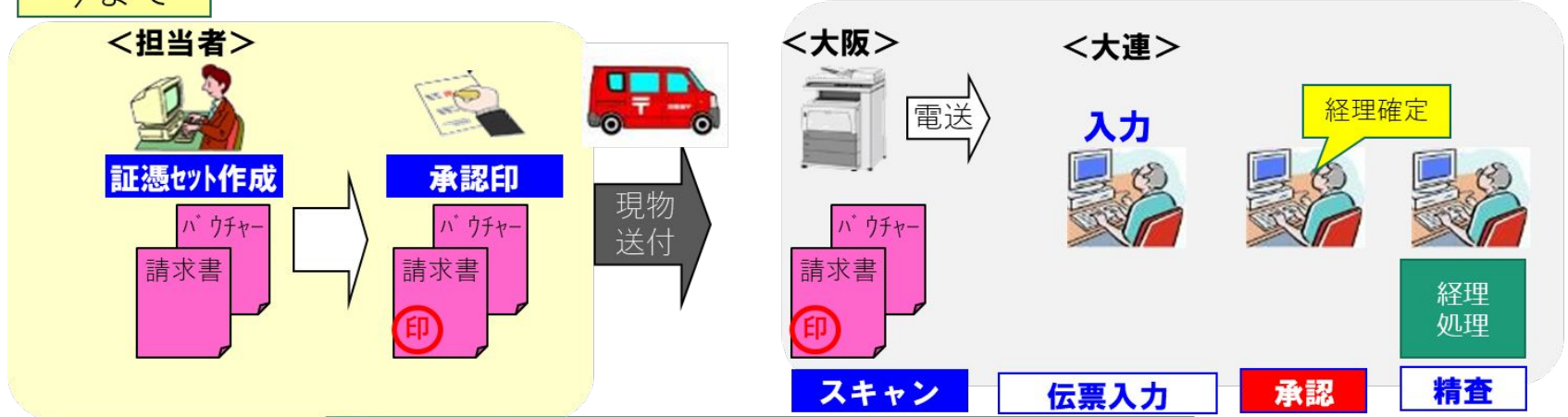
(旧) T13:00



(新) T22:00 (支払先追加入力なし)

AI-OCR導入(2021年～)

今まで



- ①ペーパーレス
- ②現場工数削減
(過去パターン活用・請求書
情報OCR読取り)
- ③大連要員削減
(約6割減)

AI-OCRのさらなる活用

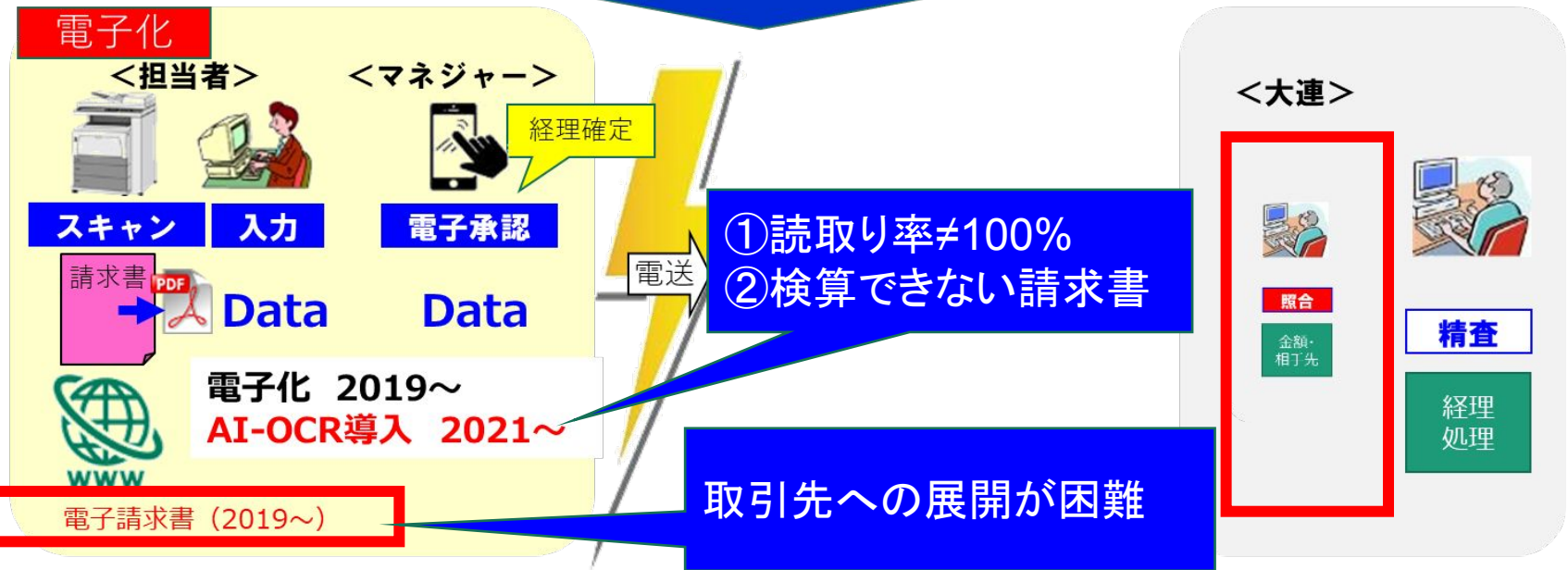
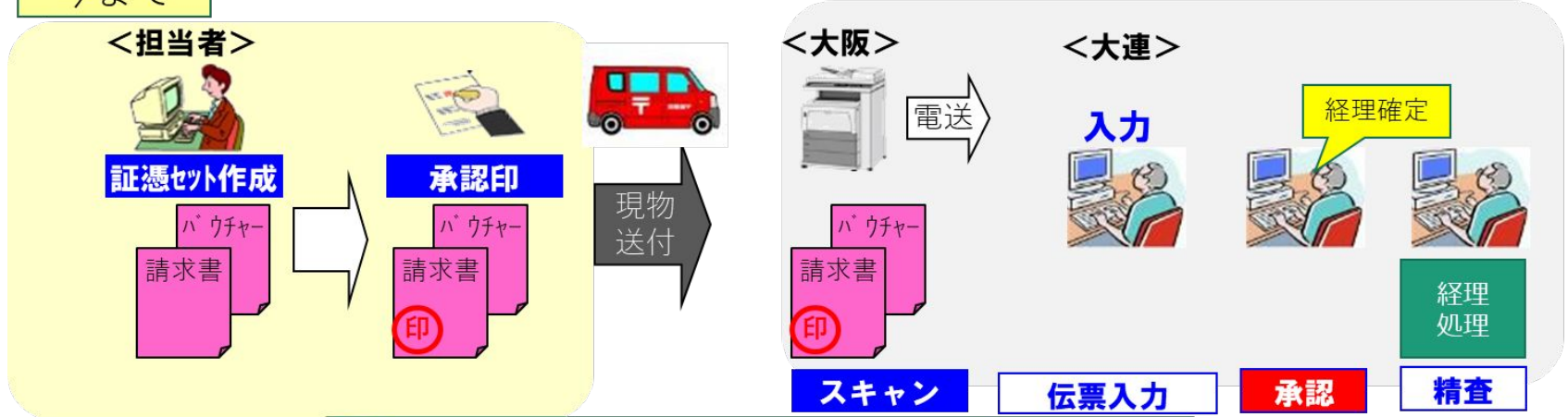
インボイス制度対応
(登録番号の読み取り)

他システムへの展開
(領収書等の読み取り)

税務事後チェックへの活用
(契約情報の読み取り)

AI-OCR導入(2021年～)

今まで



ファーストアカウンティングとOBCが、お客様環境においてデジタルインボイスの送受信テストに成功

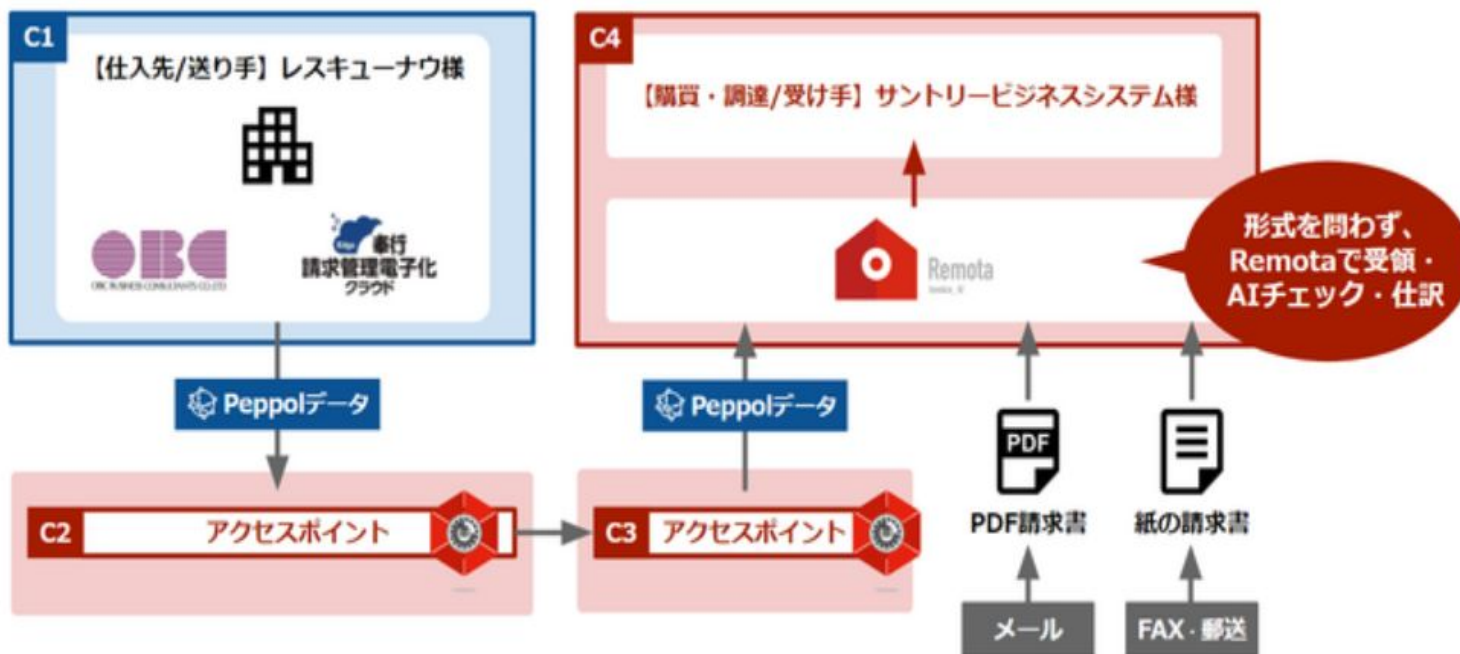
2023/08/08 プレスリリース

ファーストアカウンティング株式会社

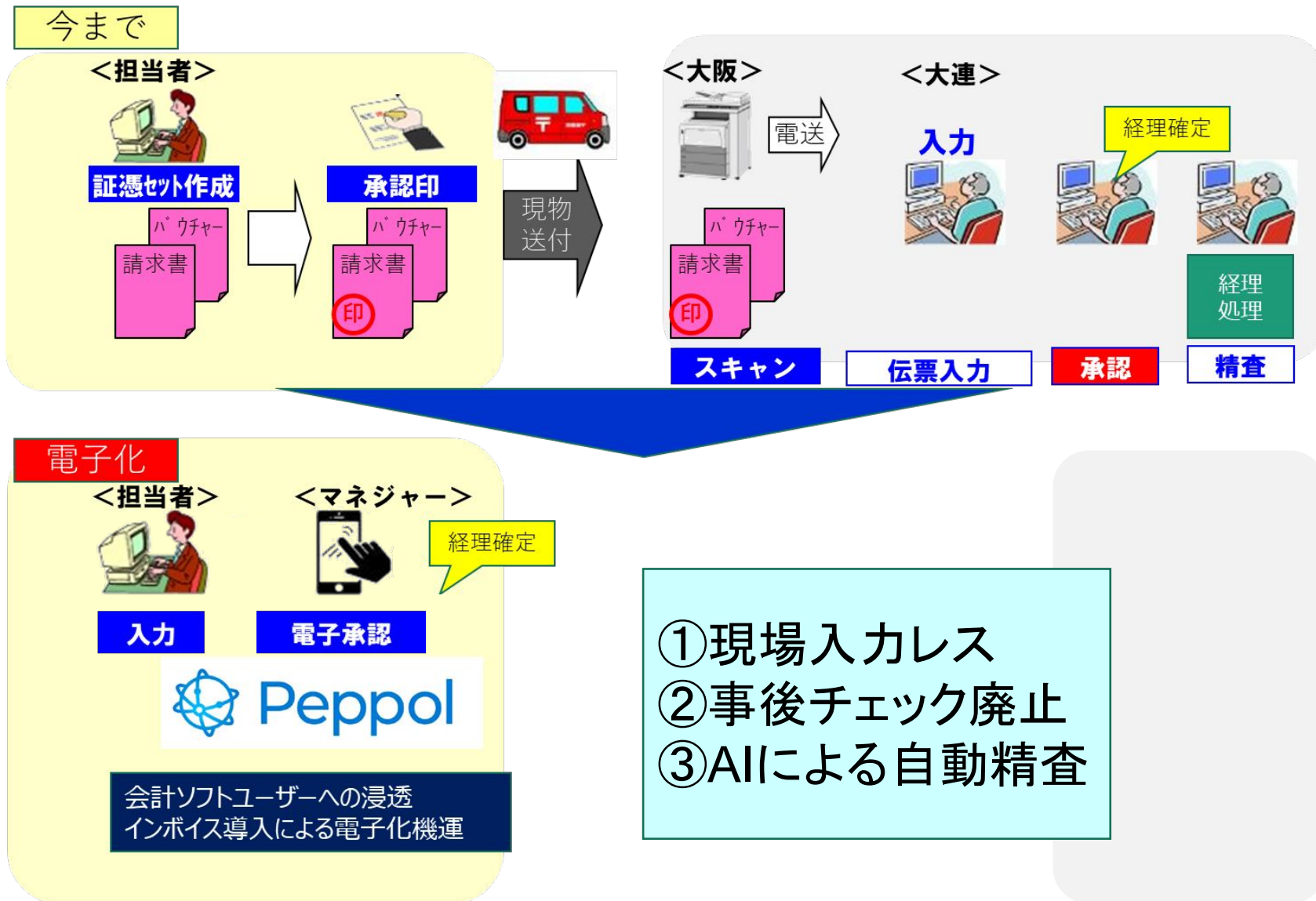
～ファーストアカウンティングの『Remota』とOBCの『奉行Edge 請求管理電子化クラウド』の
異なるシステム間で送受信が可能であることを実証～

実証実験内容

今回の実証実験では、レスキューナウが『請求管理電子化クラウド』を利用してデジタルインボイスを発行し、アクセスポイントを介してサントリービジネスシステムが『Remota』にて受領確認を行いました。



PEPPOL・AIによる自動化への期待



ご清聴ありがとうございました